2022.1.7

☆太田女子高校☆

保健だより

♪　さあ、2022年を元気にスタートしましょう　♪

１２日間の冬休みを終え、いよいよ“３学期”がスタートしました。与えられた時間を有効に遣い、リラックス・リフレッシュ・リセットできましたか？　３年生はこれからが受験本番、１・２年生は学年の総まとめの時期です。体調を整えて、万全の状態で乗りきりましょう。

☆気を緩めずに、しっかり感染症対策を実践しましょう☆

２学期末に近隣の学校でクラスターが確認され、休校の措置が講じられたことがニュースになりました。学校という集団生活の場では、気を付けていても感染が広まるリスクがあることを再認識しなくてはなりませんね。一時期感染が小康状態にあったことで、誰の中にも“気の緩み”があったのかも知れません。日本でもオミクロン株の市中感染が相次ぎ、群馬県でも先日初の市中感染が報告されました。しっかり気を引き締めて、感染症対策を実践していきましょう。

①体調が悪い時は休む：本人はもちろん、家族に発熱等のかぜ症状がある時は登校できません。
②毎朝の検温と健康調査：登校前に検温し早めに入力を。検温忘れの人は、昇降口で必ず!!
③マスクの着用：飛沫感染の予防に効果があります。予備も用意しておきましょう。
④手洗い・うがい：接触感染の予防に効果があります。こまめに手を洗いましょう。
⑤消毒：各所に設置されている手指消毒用アルコールを有効に活用してください。
⑥食事のマナー：最も感染リスクが高い場面です。12:30 ～ 12:50 は「黙食」の時間です。
⑦換気への協力：換気の徹底に伴い、校内での防寒着の着用が認められています。
⑧密を避ける：人と十分な距離をとりましょう（2 m･･･最低でも 1 mの距離を）。

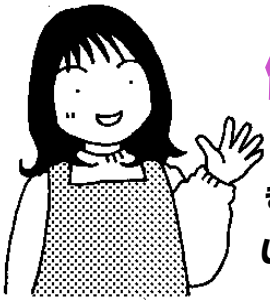
学校で発熱等のかぜ症状が見られた場合には、基本的には「早退」となります。場合によっては公共機関を利用せずに保護者の迎えをお願いすることもありますので、その場合の連絡の取り方を確認しておいてください。

☆感染性胃腸炎も流行っています☆

ノロウイルスやロタウイルスによる感染症で、秋から冬にかけて流行します。感染経路は、ウイルスが付着した手で口に触れることによる「接触感染」、汚染された食品を食べることによる「経口感染」があります。昨シーズンは感染者数がおさえられていましたが、今シーズンは増えているようです。このウイルスは、アルコールでは死滅しませんので、手を石鹸で洗うことが大切です。

冬休み中、大きな病気やケガ・交通事故などはありませんでしたか？

上記に該当する場合 は、必ず担任の先生に申し出てください。また、**学校管理下においてケガなどを負った場合** は、日本スポーツ振興センターの災害共済給付金制度が適用されますので、保健室まで書類を取りに来てください。**すでに災害共済給付金の請求手続きを行っている人** は、休業中に医療機関で書いてもらった用紙を早めに保健室に提出してください。



健康診断後の受診は済みましたか？

休み期間中に治療を終えた人は、治療済み用紙を担任に提出してください。また、用紙は年度末まで受け付けていますので、受診・治療が終わり次第報告してください。 来年度まで持ち越さないようにしましょう。

子宮頸がんワクチン接種への積極的な呼びかけを再開！

子宮頸がんワクチンは２０１３年４月から定期接種に追加され、小学６年生から高校１年生の女子を対象に原則無償化での接種となっていましたが、接種後に全身の痛みなどを訴える人が相次いだため、厚生労働省は２ヶ月後の同年６月に「積極的な勧奨を中止」していました。

その後、国内や海外で有効性や安全性のデータが報告されているなどとして、厚生労働省は来年４月から接種の呼びかけを再開することを今年の１１月に決定していました。また、専門家で作る分科会において“呼びかけを中止していた間に定期接種の対象年齢を過ぎた女性への対応”について議論を重ねた結果、呼びかけを中止していた８年余りの間に定期接種の対象年齢を過ぎた女性すべてを無料接種の対象とすることを決めました。

現在高校２年生～２０代半ばの女性の中には、無料で接種できると知らずに対象年齢を超えてしまった人がたくさんいますが、その人たちが救済措置を受けられることになったのです。具体的には、**1997年度～2005年度に生まれた9学年の人が対象**です。**救済措置の期間は、来年の4月から3年間とされています。**

子宮頸がんワクチンの接種スケジュールは、まず小学校６年生または中学校１年生になったら初回接種を受け、１～２か月の間隔をあけて２回目を接種。そして、初回接種の６ヶ月後に３回目を接種します。救済措置での接種も、接種間隔は同様です。

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）は、性経験のある女性であれば５０％以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんを始め、肛門がん、膣がんなどのがんや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。
ＨＰＶワクチンは、子宮頸がんをおこしやすいタイプであるＨＰＶ１６型と１８型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の５０～７０％を防ぎます。 ＨＰＶワクチンを導入することにより、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。